

平成30年度第2回花巻市行政評価委員会（人づくり・地域づくり部会）会議録

1 開催日時

平成30年9月19日（水） 午前10時～午前11時40分

2 開催場所

生涯学園都市会館 3階第5会議室

3 出席者

(1) 委員 6名

堀籠義裕委員（部会長）、青木明希委員、久保田廣美委員、福盛田弘委員、
佐藤洋子委員、曾我紀子委員

(2) 説明者（施策主管課） 1名

学校教育課：中村哲課長

(3) 事務局（施策及び事務事業評価担当課） 4名

秘書政策課：菅野圭課長、高橋誠課長補佐、瀬川千香子主査

財政課：八重樫雅喜課長補佐

4 議題

市が実施した施策評価のうち、花巻市行政評価委員会の評価対象施策である「特別支援体制の充実」について評価を行った。

(1) 施策主管課による説明、質疑応答

(2) 委員会の評価結果集約

5 議事録

(1) 施策主管課による説明、質疑応答【主な意見・質疑等】

曾我紀子委員：発達障がいとの関係で、臨床心理士等関わっているのか。

中村哲学校教育課長：関わっていただいている。

曾我紀子委員：精神障がい（うつ、パニック障害含む）やLGBTについても個別の教育支援計画に入れていただきたい。

中村哲学校教育課長：検討したいと思う。

佐藤洋子委員：特別支援事業により相談員等を配置したとのことだが、このことにより不登校が解消されたケースはあるか。

中村哲学校教育課長：別室登校で高校受験したケースなどがある。

佐藤洋子委員：保健室も別室登校扱いとなるものか。

中村哲学校教育課長：保健室も別室登校となる。学校へ行く目標を持たせることで登校につながる。不登校になる原因は1人ひとり違う。これを1つひとつクリアするべく取り組んでいる。

久保田廣美委員：小6から中1への移行で不登校が増える傾向にあるが、学級崩壊やいじめの情報等、小学校から中学校の先生方に情報伝達されているのか。

中村哲学校教育課長：卒業式終了後、小6の先生と中1の先生とで引き継ぎを行っているが、小6の先生が小学校低学年、中学年のころの状況をよく知らずにうまく引き継ぎにならなかったケースがあり、課題ととらえている。

青木明希委員：定義として、別室登校は不登校にカウントされないのか。

中村哲学校教育課長：カウントされない。少しでも登校すれば不登校ではない。

青木明希委員：親が子を車に乗せて駐車場で先生と会っただけというケースがあったと聞いたが、これも登校扱いになるのか。

中村哲学校教育課長：学校長の判断にもよるが、「よく来たね。がんばったね。」と評価して登校扱いにしているケースがあると聞いている。

福盛田弘委員：不登校には様々な原因があると思うが、その原因を追究しているのか。

中村哲学校教育課長：学校では問題行動等調査を実施している。統計学的にははっきり言い切れないが、家庭の後押しが足りない、家庭環境が複雑であるなどのケースもある。原因として多いものは、学業不振や友人関係のトラブルである。

曾我紀子委員：不登校に関連して、いじめ問題を解決させたケースはあるのか？

中村哲学校教育課長：平成29年度にいじめと判断されたケースは4件あったが、学校では話し合う、謝罪の場を設けるなどしている。

曾我紀子委員：過去に、ADHD（注意欠陥多動性障がい）の子どもが学校では気付いてもらえず、18歳になって分かったという事例がある。ADHDのこともありいじめられたが学校は対応が冷たかった。いじめられている子供が別室登校というように被害者が隅に追いやられるのはおかしいと思う。

中村哲学校教育課長：当時そのような冷たい対応であったことはお詫びする。まず学校が子供の様子に気づくことが重要であり、教員の資質向上が第一と考える。

青木明希委員：活動指標を見ると、相談員に係る各実績は計画値を超えているが、学校や保護者等の要望には十分に対応できているのか。不足しているという現場の声も聞いたことがあるが。

中村哲学校教育課長：相談員等については要望が多く、できるだけ対応したいと考えているが、各学校で必要と考える数が異なり、全体を見て平等に判断している。

佐藤洋子委員：大人が対応しても解決しない場合、周りの友人等の影響も重要なのではないのか。

中村哲学校教育課長：友人を含め後方や側面からの支援をする学校もある。

堀籠義裕委員：「個別の教育支援計画シート」の内容は障がいに関するもののようだが、「不適応支援」については、こういった取り組みはあるものか。

中村哲学校教育課長：月1回ケース会議を実施しており、7日間休み始めた児童・生徒をもれなく把握している。

福盛田弘委員：先ほど話のあったADHDのお子さんについて、学校では気付かないものなのか。

中村哲学校教育課長：ADHD、発達障がいのことを学校現場で把握できるようになったのはつい最近であり、勉強不足であったと思う。現在は、何かあれば教育支援員を派遣して対応している。

曾我紀子委員：ADHDについては、男子より女子の判定が困難なようだ。

中村哲学校教育課長：相談員のうちADHDの判定可能な人員は2名しかいない。要請を受けていつも忙しく観察に回っている。医師ではないため助言にとどまるが、その助言を受け入れられない親もいる。

福盛田弘委員：不登校の子どもが多くなった背景は。

中村哲学校教育課長：社会的要因として、スマホの普及等により脳が休まらないことや家庭内が不安定であることが不登校のきっかけとなるケースがある。SNSの使い方についての保護者向け講習会は、中学校から小学校、保育園まで対象が下がってきている。

久保田廣美委員：教育支援計画は、小・中学校とも100%の作成となっているが、これで終わりではなく、見直し等を進めていくのか。

中村哲学校教育課長：今後はより詳細な個票の作成を予定している。

(2) 委員会の評価結果集約【施策評価検証シートの整理】

● 「◎前年度評価の振り返り」において前年度の「Check＝評価」⇒「Action＝見直し」が機能しているか

久保田廣美委員：「反映状況」1つ目に記載の「不適応対策として、市教委担当者によるケース会議を実施した」について、その後の成果・効果が不明であるため、具体的な内容の記述が必要である。

堀籠義裕委員：「反映状況」2つ目に記載の「個別の支援計画作成について、説明会を設定し、100%達成した」について、100%達成の対象が不明であるため、後段を「支援を必要とする児童生徒についての計画を作成した学校の割合が100%になった」などとすると良いのではないかと。

久保田廣美委員：さらに、100%になったから、「今後より詳細に対応していく」などの記載も加えると良いのではないかと。

福盛田弘委員：「反映状況」のいずれも「〇〇を実施した」で終わるのではなく、その成果がわかる具体的な記載が必要。

堀籠義裕委員：「前年度評価時の今後の方向性」1つ目に「関係機関が連携して組織的に対応できる体制を構築する」とあるが、「関係機関との連携」についての反映状況が記載されていない。

● 「5施策を構成する事務事業の検証」が的確に行われているか

堀籠義裕委員：「①市民ニーズや市の関与の必要性が低下した事業、・・・」に関しては、「なし」で妥当であると考えます。

堀籠義裕委員：「ふれあい共育推進員の資質向上を図る研修」の具体的な内容を記載すべきである。

青木明希委員：「ふれあい共育推進員」について、45名配置、配置率100%とあるが、それが妥当かどうか不明である。施策主管課の説明によるとニーズはもっとあるようであった。

堀籠義裕委員：資質向上の具体的内容とあわせ、配置人員数の妥当性の根拠となるような記述も必要である。

堀籠義裕委員：事務事業評価シートには「成果の向上予知あり」とある。この記載内容をより具体化すれば「新たに取り組むべき事業」があるのではないか。

●「3 成果指標の達成状況」の「(達成状況に関する背景・要因)」の分析が的確に行われているか

久保田廣美委員：2つ目の「結果、どの学校についても障がいのある児童生徒の状況を把握することが可能になった」の記述において、「結果」の後に「全校で個別の支援計画を作成し」を加えるとわかりやすいのではないか。

堀籠義裕委員：周知により計画が作成された結果として、児童生徒の状況を把握することができたことが伝わる。

●「6 施策の総合的な評価」が的確に行われているか

堀籠義裕委員：「課題」2つ目の「個別の教育支援計画の作成割合が100%となった」の記載については課題ではない。

久保田廣美委員：後ろに「が、今後〇〇する必要がある」等の記載があった方が良い。

堀籠義裕委員：「課題」1つ目の「教育相談員の資質向上と連携」について、「資質」と「連携」の具体的内容を記載すべき。

青木明希委員：「課題」3つ目において「ニーズが高まっていることから・・・各校の体制充実を図る必要がある」としながら、「今後の方向性」において増員なのか、現状維持なのか方向性が明らかになっていない。

堀籠義裕委員：「各校の体制充実を図る必要がある」については、ニーズに対応してどのように充実させるのか、根拠を示しながら具体的に記載すべき。

●「シート記載内容全般について」

堀籠義裕委員：全般的に、より具体的に、根拠を示して記載する必要がある。

福盛田弘委員：「LD」や「ADHD」などの専門用語については、一般の方にわかりやすいようシート内に解説が必要である。